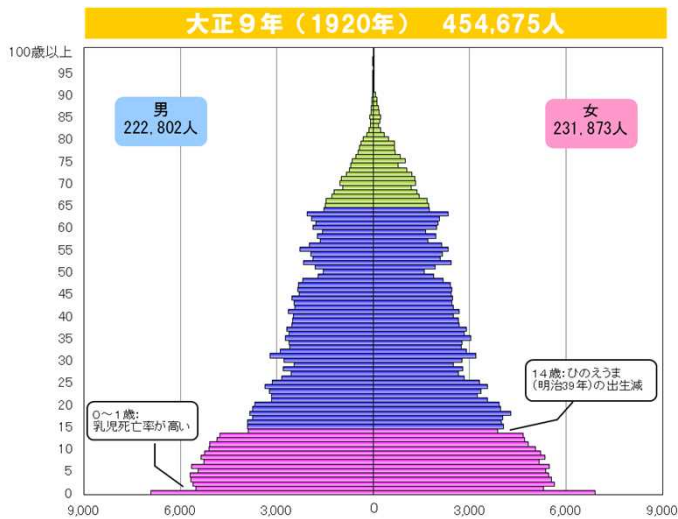


# 平成27年国勢調査でみる鳥取県 ～人口構成の変化～

## 人口ピラミッド

人口ピラミッドは、男女別・年齢別の人口を0歳から順に積み上げた棒グラフです。  
鳥取県の人口構成の変化を、大正9年から平成27年まで見てみましょう。

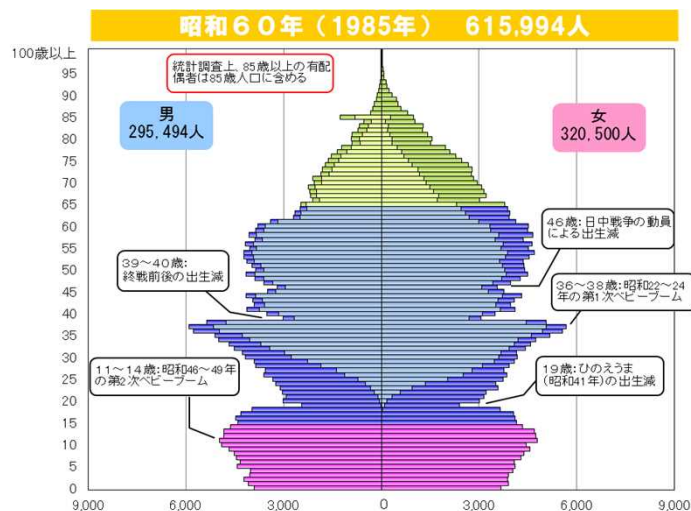
- …老年人口（65歳以上）
- …生産年齢人口（15～64歳）
- …年少人口（0～14歳）
- …有配偶者（65歳以上）
- …有配偶者（15～64歳）



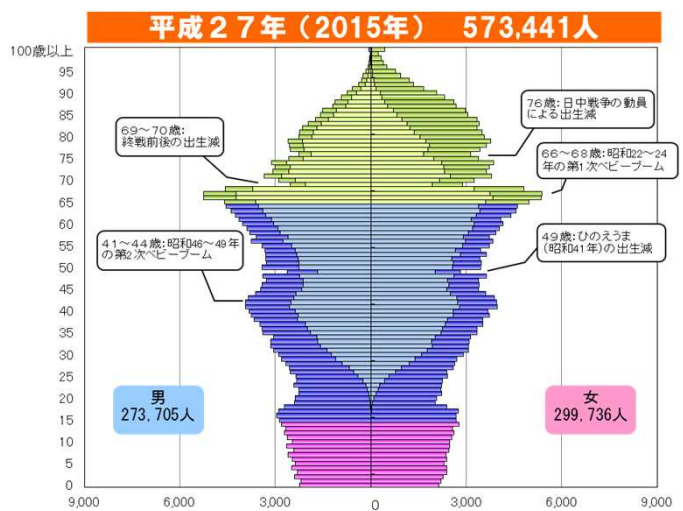
大正9年の人口ピラミッドは、若い年齢ほど年齢別の人口が多く、高齢になるほど少ないため、山のような形をしています。  
0～1歳は乳児死亡率が高いため、大幅に減少しています。



昭和30年には、大正9年に比べ人口が増加しているため、全体的に大きなピラミッドになっています。  
特徴としては、第一次ベビーブームの影響で昭和22～24年の人口が多いことがわかります。



鳥取県人口が最も多かった昭和60年の人口ピラミッドは、大正9年や昭和30年と比べて年少人口が少なくなっており、ひょうたん型に近い形となっています。



昭和60年に比べ老年人口の増加、年少人口の減少が見られ、つぼ型に近い形になっています。  
配偶関係では、生産年齢人口の有配偶者の割合が減少しており、有配偶者でない者（未婚・死別・離別・不詳のいずれか）の割合が増加していることが見て取れます。